

むきぼんだ花だより

3月

2018.3.3

◎ネズ(杜松)、ヒノキ科・ビャクシン属。常緑低木、雌雄異株、○別名：ネズミサシ、ネズサシ、モロノキ、ムロ、園芸上「盆栽」では杜松(トショウ)。○名前の由来：硬い針葉の先端が鋭く尖っている、触れると非常に痛いので、ネズミ除けに使ったことから、ネズミサシとなり、それが縮まった。○花言葉：保護。○分布：日本では、東北以南の日当たりの良い丘陵地帯や花崗岩地に良く自生し、4月頃葉の脇に多数の花を付けます。雄花は黄緑色。雌花は緑色です。果実は、球果の緑色で白い粉が有りますが、通常の針葉樹の様に乾燥した松ぼっくり状に熟するのではなく、受粉の1~2年後の10月頃に、紫色漿果状の肉質に熟します。熟した果実を採取、陰干しにして乾燥させたものを生薬の杜松実(としょうじつ)または杜松子(としょうし)と呼び、利尿・発汗、去風薬(きよふう)で尿道疾患や、水腫等に用いられます。○「ネズ」は、成長が遅く、材は緻密で杜松(としょう)とも呼ばれ、盆栽に仕立て喜ばれ、株立ち状になったものは背負小や魚を取る網に利用されました。●ジンの元祖です。17世紀に、オランダの医師が熱病の患者を、救うため、利尿剤の杜松実とアルコールで薬酒を作りました。これが、お酒のジンの始まりになりました。原料の由来から、市販のジンの殆どにヨーロッパネズのラベルが貼られているそうです。

★撮影日：2018,3,3、★撮影場所：妻木山地区



ネズ(杜松)、ヒノキ科、ビャクシン属



アオキ(青木)、ミズキ科、アオキ属、青い果実は秋には赤く熟す。



ヒメドリコソウ(姫籠り子草)とオオイヌフグリ(大犬の陰囊) 持ち運しかつた、春の草花も咲き始めました。楽しみですね。



チャノキ(茶の木)、ツバキ科、ツバキ属



アオモジ(青文字)、クスノキ科、ニッケイ属、



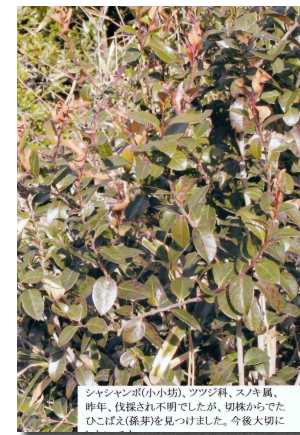
ウバユリ(姥百合)の花股、ユリ科、ウバユリ属、



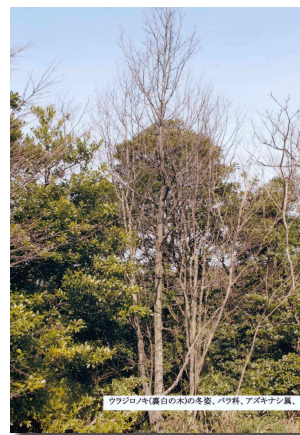
ヤブニッケイ(藪南柱)、クスノキ科、ニッケイ属、

◎ウバユリ(姥百合)、ユリ科、ウバユリ属、多年草。○別名：カバユリ、ウンバイロ、ハユリ、キユリ。○名前の由来：花が咲き終わる頃、根本の葉が枯れて無くなるため「葉なし」を「歯なし」にかけて、老女(うば)に見立て名が付いた様です。地下には、葉柄の株が膨んだ鱗茎(球根)をもつ。茎の下部から根を多数出し、輪生状に5~6枚の葉を付けます。葉は、長さ15~25 cmで、網状の脈があり、縦に巻いているのが次第に開き、ハート形の卵状心形になります。鱗茎が成長すると、直立する高さ50~100cmの茎が伸び、花は緑白色で長さ12~17cmの細長いユリに似た花で花被片がやや不規則に並び、花期は7~8月、茎の上部に横向きに花を付けます。長さ4~5cmで楕円形の果実を付けます。○花言葉：威厳、無垢。★《ウバユリ》の食べ方：姥百合はなんと食べることもできるんです。*~春にまだ芽が出たころの若葉 *~花が咲く時期には鱗茎を食べることが出来ます。若葉は、非常にアクが強くて苦いので、長時間湯がいて更に水で長めに晒します。苦い様なら更に水に晒します。鱗茎は、若葉に比べアクが少なく、最も良い食べ方は天ぷらです。170度の油で長めにあげます。少ないと云ってもアクは有ります。長めに揚げることでアクが抜けて美味しく食べることです。塩や天つゆ、抹茶塩が合うそうです。☆《ウバユリ》に良く似た毒草が有ります。それは、「バイケイソウ(梅患草)」です。これには、鱗茎や特徴のある紫の葉脈も有りません。

★撮影日：2018,3,3、★撮影場所：妻木山地区。



シャヤンボ(小少功)、ツツジ科、スズキ属、昨年、伐採され不明でしたが、切株からたのこぼえ(新芽)を見つけました。今後大切に



ウツロ(赤い裏白の木)の冬姿、バラ科、アズキナ属、



オオバヤシャブシ(大葉夜又五倍子) カバノキ科、ハンノキ属



タニツツジ(谷恋木)、スイカズラ科・タニツツジ属

サクラのママ知識

サクラ(桜)はイチゴやバラと同じ仲間バラ科に属する植物で、サクラ属のグループです。バラ科の特徴として、その花の基本構造は、①大きな花弁が放射状に5枚あること、②一つの花の中に雄蕊と雌蕊を持つ両性花であること、です。しかしこの様な特徴は野生種の形態で話で、栽培品種には当てはまらないものもあります。

「Ⅰ」、《野生のサクラ》～日本に自生している野生のサクラはいくつあるのかと、調べてみました。沖縄県石垣島に自生地がある。①カンヒザクラの他、②ヤマザクラ、③オオヤマザクラ、④カスミザクラ、⑤エドヒガン、⑥チョウジザクラ、⑦ミヤマザクラ、⑧オオシマザクラ、⑨マメザクラ、⑩タカネザクラ、の10種類です。簡単に説明しますと、

カンヒザクラ(寒緋桜):沖縄から中国南部、ベトナムに分布。花弁は濃い紅色で、開花期が早い。

ヤマザクラ(山桜):東北南部から九州に分布、公園などで普通に見られる。白い花と同時に開き始める若葉が赤褐色であると云う特徴がある。

オオヤマザクラ(大山桜):北海道から本州、四国、九州及び朝鮮半島に分布。寒さに強く花弁はヤマザクラより大きく花が紅色なので「紅山桜」、北海道に多いので「蝦夷山桜」とも呼ばれる。

カスミザクラ(霧桜):北海道から本州、四国、九州及び朝鮮半島等に分布。ヤマザクラに似ているが、葉柄などに毛がある場合が多く、開花期が遅い。

エドヒガン(江戸彼岸):本州、四国、九州及び済州島に分布。春の彼岸頃に開花し、花は白色から紅色まで変異がある。花が咲いて葉が開く。有名な老大木が多い。

チョウジザクラ(丁子桜):本州と九州に分布。花弁が短く、花の元の部分が筒型に長いので、その形を香辛料の丁子(クローブ)に見立てた。

ミヤマザクラ(深山桜):日本を含む極東地域に分布。上向きに真直に伸びた柄に4~10個の小さな花を付ける。葉が開いてから開花する。開花時期はカスミザクラよりもさらに遅い。

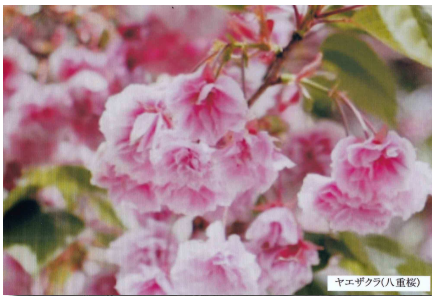
オオシマザクラ(大島桜):関東南部に分布。花が大きい。ヤマザクラと同じく開花と同時に若葉が開き始めるがその色が緑色なので区別が出来る。

マメザクラ(豆桜):富士山を中心にした関東から関西に分布。樹は低木で、花は下向きに咲く。

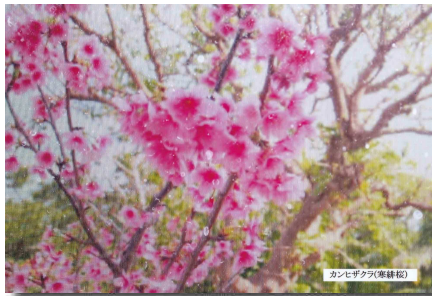
タカネザクラ(高嶺桜):北海道から本州中部及びロシア、極東部に分布。花はマメザクラに似ているが、高木になる。◎植物学的には以上の10種が日本のサクラの野生種です。この他に、属は異なりますが「ウワミズサクラ(上摩桜)」や「イヌザクラ(犬桜)」など、或いは常緑の「リンボク(樺木)」や「バクチノキ(博打の木)」があり、これらもサクラに近い仲間と云えるそうです。



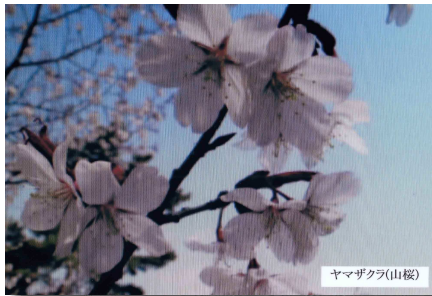
オオシマザクラ(大島桜)



ヤマザクラ(山桜)



カンヒザクラ(寒緋桜)



ヤマザクラ(山桜)



オオヤマザクラ(大山桜)

「Ⅱ」、《栽培品種》～日本の森林の調査では「サクラ」は野生種10種のどれかに分類される事になりますが、美しい花を付ける特徴のため、観賞用に多く栽培されてきました。そのため、八重咲き、枝垂れ咲き、など特に観賞に値するものは大切に保存し増殖され、現在では200種とも、交雑種を含め600種とも云はれ品種の混乱が続く整理が必要で研究の成果が待たれているそうです。

「Ⅲ」、《サクラの開花》～野生のサクラは同じ所に生えていても個体ごとに開花時期がずれます。一方栽培種である「染井吉野」はほぼ一斉に開花します。これは遺伝的な違いによると考えられます。つまり、染井吉野は元々1本の木から接ぎ木によって増やしたものですから、遺伝子は皆同じです。ところが野生のサクラは同じ木の種と云っても、花粉が受粉したタネから芽生えた木ですからそれぞれの樹の持っている遺伝子は微妙に違うと考えられます。開花時期では、2月頃咲く寒桜から、冬桜、十月桜、四季桜、不断桜、子福桜、等栽培品種には、一部は秋に咲き、殆どは春に咲く特徴を持っています。

「Ⅳ」、《「彼岸桜」と「染井吉野」》について～

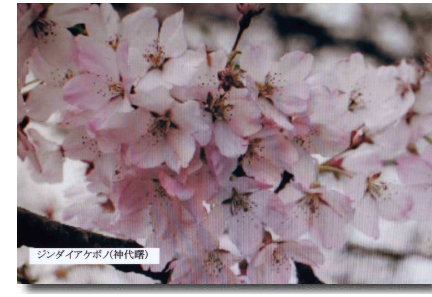
(1):「彼岸桜」について=彼岸桜はどんなザクラか?の

答え。『春の彼岸頃に開花する桜』です。ソメイヨシノなど良く見かける桜は3月末頃～4月上旬頃開花し始めますが、彼岸桜は3月中旬の「彼岸」頃から開花を始めるというので彼岸桜と云われるようになったようです。そして、彼岸桜はソメイヨシノ等の一般的な桜と比較すると、淡紅色の花を咲かせるのが特徴になっているようです。ちなみに彼岸桜には別名として「小彼岸(こひがん)」、「小彼岸桜(こひがんざくら)」とも呼ばれます。御寒桜は彼岸桜と名前が良く似て紛らわしいと云う事で最近では、カンヒザクラと呼ばれることが多いようです。

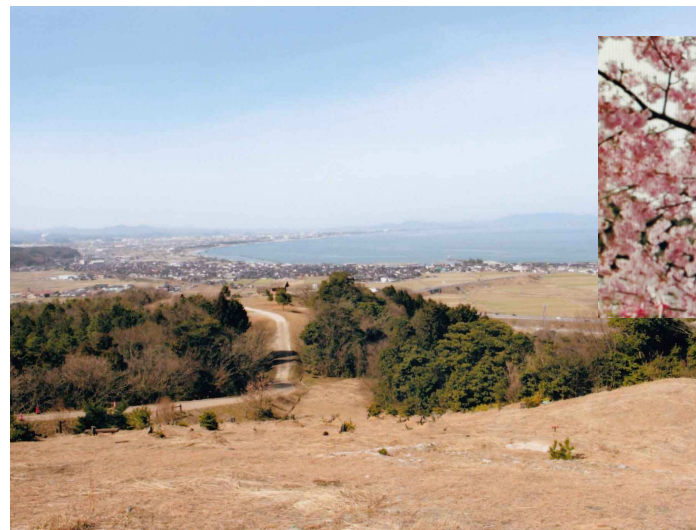
(2):「染井吉野」について=江戸時代末期に、染井村(現在の豊島区駒込)の造園師や植木職人達によって育成され、始め桜の名所として古来から名高く、西行法師の和歌にも度々詠まれた大和の吉野山にちなんで「吉野桜」として売られ、広まりました。藤野奇命(博物学者)による上野公園のサクラの調査で山桜と異なる種の桜であることが判り(1900年)に、この名称では吉野山に多い山桜と混同される恐れがあるため、(日本園芸雑誌)に、染井村の名を取り「染井吉野」と命名されました。翌年には松村任三(博物学者)が学名を付けました。『染井吉野』は、エドヒガンの母樹とオオヤマザクラの父樹のクローンで、接ぎ木により増殖しているため、全ての株が同一に近い特性を持ち、病気や環境の変化に大きな影響をうけると危惧されていたようです。染井吉野は60年寿命と云はれ、成長が早く、大木になり易い。根は浅く広く張ります。それに伴って街路や舗装を变形したり破壊し、バリヤフリーの面で障害になります。そこで、「テングス病」にも強く花や開花時期や「画線」も同じ、『ジジダイアケボノ(神代藤)』を「日本花の会」で推奨し、平成17年度から苗木の配布を始め、平成21年度からは「ソメイヨシノ」の苗木の販売も中止しました。したがって、**日本全土は、やがて「ジジダイアケボノ」に代替わりをしようです。**～おわり～



ソメイヨシノ(染井吉野)



ジジダイアケボノ(神代藤)



カワヅザクラ(河津桜)

★むきばんだを歩く会★

- 指導: 鷲見寛幸先生 (鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分～正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ: むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」